

平成28年度合同防災訓練の実施方針(案)

平成27年度 大規模土砂災害を想定した合同防災訓練の概要①

■訓練概要

日時：平成27年11月20日(金) 10:00～15:00

9:30～10:00 集合・受付・事前アンケート記入

10:00～10:05 開会・開会挨拶(高山市長)

10:05～10:15 訓練の進め方等の確認(事前アンケート記入)

10:15～12:00 学習型防災訓練(第1部)

12:00～13:00 休憩

13:00～14:30 学習型防災訓練(第2部)

14:30～14:55 ふりかえり・意見交換(事後アンケート記入)

14:55～15:00 閉会挨拶(神通川水系砂防事務所長)

15:00 閉会

会場：高山市 市民ホール(高山市役所地下 大会議室)

訓練方式：学習型方式

訓練の目的：大規模土砂災害が頻発している昨今の状況及び土砂災害防止法や災害対策基本法の改正事項を鑑み、高山市、飛騨市、白川村、岐阜県、国土交通省等の各防災担当者が一堂に会して、大規模土砂災害が発生した場合の対応行動について確認・検証することを目的とした合同防災訓練を行うものである。

今回の訓練のポイント：

- 情報収集・共有体制の確認
- 法改正に基づく、各機関の対応の確認
- 連携マニュアル(素案)の確認と検証

■参加機関・組織別参加者数

参加組織	参加者数
高山市	12名
飛騨市	7名
白川村	2名
岐阜県 (防災課・砂防課)	5名
岐阜県 飛騨県事務所	2名
岐阜県 飛騨農林事務所	2名
岐阜県 高山土木事務所	3名
岐阜県 古川土木事務所	4名
林野庁 中部森林管理局 飛騨森林管理署	4名
国土交通省 北陸地方整備局	1名
国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所	4名
砂防スペシャルエンジニア (JSSSE)	2名
国土交通省 北陸地方整備局 神通川水系砂防事務所	8名
見学者 (2組織)	2名
報道機関 (2社)	2名
事務局	14名

プレイヤー
: 56名

参加者総計
: 74名

<合同防災訓練の実施状況>



平成27年度 大規模土砂災害を想定した合同防災訓練の概要②

■訓練の災害想定

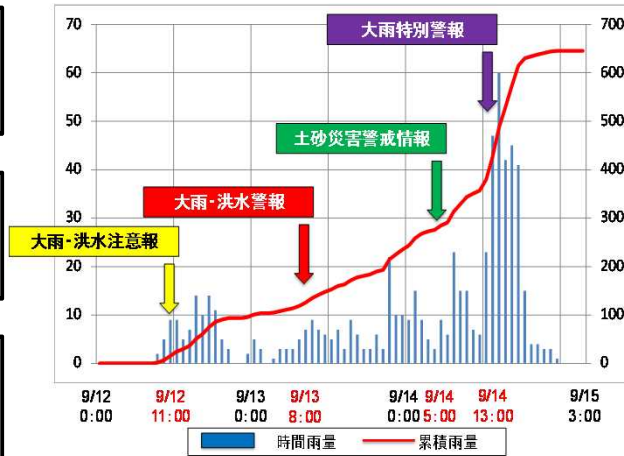
台風16号の接近に伴う豪雨:
総雨量645ミリとこれまでに
前例のない規模の大雨

同時多発的土砂災害の発生:
市村内各地で小規模、同時多
発的な土砂災害の発生

孤立集落の発生(白川村):
道路等の被災による交通
途絶

緊急調査の対象となる地す
べりの発生(飛騨市):
地すべりの滑動に伴う10戸以上
の人家への被害のおそれ

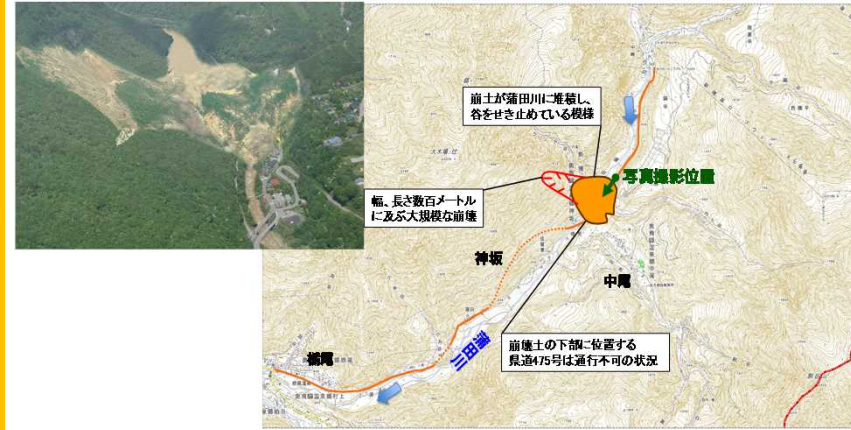
緊急調査の対象となる河
道閉塞の形成(高山市):
上流側の湛水進行と決壊
(土石流)発生による下流
氾濫のおそれ



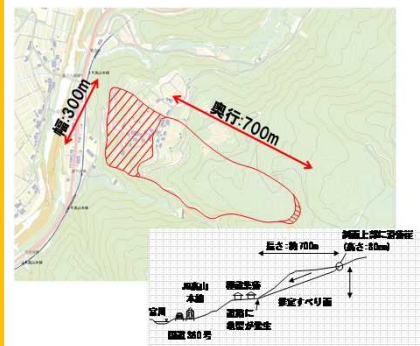
雨量分布図(栃尾出張所)

河道閉塞の想定(高山市奥飛騨温泉郷神坂地区)

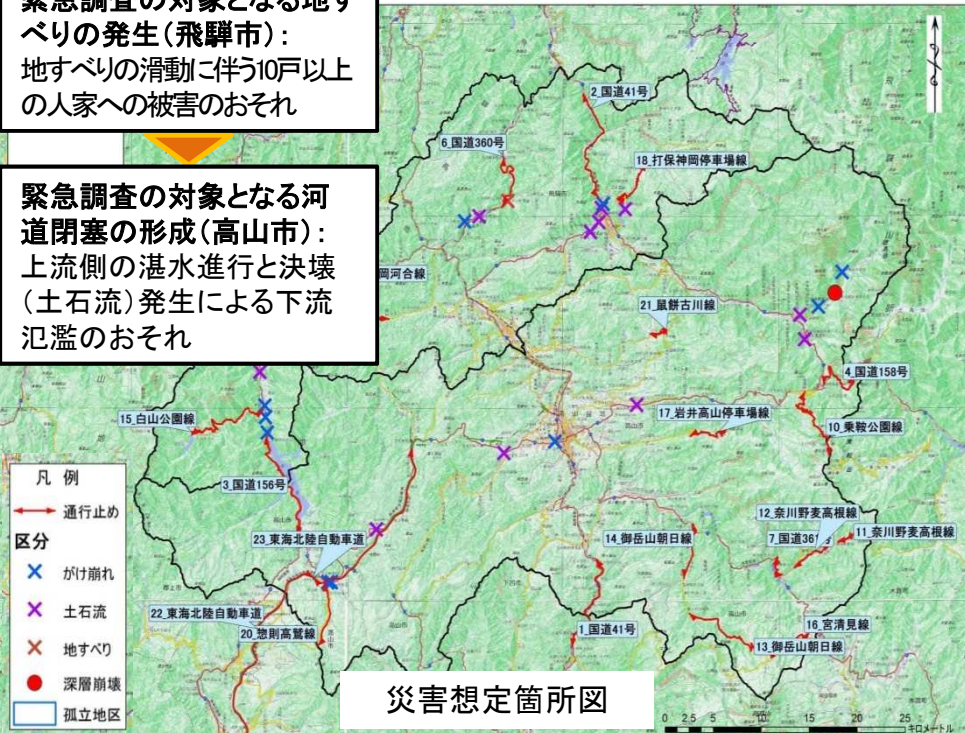
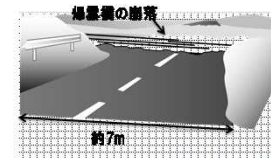
・河道閉塞の高さ:約80m



地すべりの想定
(飛騨市宮川町種蔵地区)



集落孤立の想定
(白川村平瀬地区、牧地区)



合同防災訓練の目的（平成28年度）

近年の大規模土砂災害の多発や、それに対する各種法整備状況を踏まえ、高山市・飛騨市・白川村・岐阜県・国土交通省等の各防災担当者が一堂に会して実施する訓練である。

土砂災害発生前から大規模土砂災害の発生、住民避難までの一連の流れを想定した合同防災訓練を実施することにより、

①情報収集・共有体制

②土砂災害防止法、災害対策基本法に基づく
各機関の対応

③連携マニュアル(案)の確認と検証

④事前防災行動計画(案)の確認と検証

を確認することを目的とする。

学習型防災訓練の概要

進行者

訓練参加の各組織をひとつの災害対策本部あるいは支部と見立て、それぞれに質問する。
回答者は特定せず、1名が組織を代表して、その組織の行動を回答する。



××という機関から、「〇〇地区で大規模な崩壊が発生し、△△の状態となっている」との報告が入りました。
この情報を受けて、あなた方の組織では、どのような行動をとりますか？

質問

回答

訓練参加者

質問内容に応じて、参加組織の中で回答者を決めて発表する。
回答者は与えられた設問に対して、自身の所属組織の対応内容を回答する。

私たちの組織では、〇〇を第一に考え、□□を行います。
併せて、この情報を△△という機関に連絡します。



<メリット>

- 進行者が重要な事項の説明や確認を行うことから、時間軸にとられず重要な場面等を切り出すことができるため、参加者の理解度、災害対応能力向上の向上が図れる。
- 参加機関の回答を参加者全員が聞くため、他機関がどのような対応を行うのか理解でき、関係機関の役割や対応の流れが参加者全員で確認できる。
- 進行者がその都度状況説明を行うため、見学者も含めた全員が同じ状況を認識・共有、理解でき、見学者にも訓練状況を理解することができる。

<デメリット>

- 参加機関毎の回答者が限定される場合が多い。
- 訓練は、進行者の知識や経験、技量等に左右される。
- 質問-回答が1対1で進行するため、進行に時間を要する。



学習型防災訓練の概要

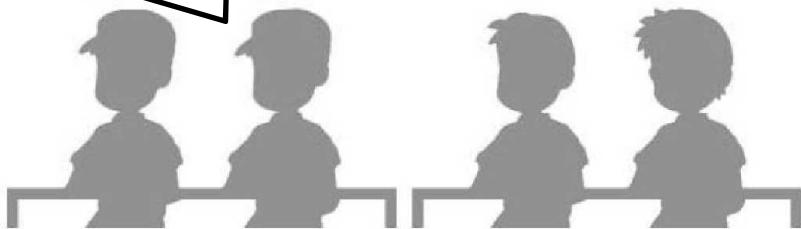
今回の訓練では、「進行者」の他に「解説者」を配置する。各ステージの最後で内容の総括等を行う。各ステージの総括や解説は、必要に応じて「解説者」も行う。

訓練中の解説

良い質問ですね。

〇〇のような場合には、××に関する対応や、また■■といったことにも留意する必要があります。△△の組織では、他にも●●といった対応も重要では無いでしょうか。

〇〇のような場合には、どのような点に留意すれば良いのでしょうか？



- 対応行動の留意点等について、適切な局面で詳細な解説を行い、参加者の理解を深めることができる。
- 疑問に感じた点をその場で解消することができる。

ステージの総括

このステージのポイントは××といった点でした。●●の対応は非常に良かったと思います。また、▼▼ということもあわせて実施することも考えられましたね。



- その場ですぐに対応を振り返ることができる。
- 回答の無かった対応方法や内容についても認識することができる。

平成28年度合同防災訓練計画概要

- ①開催場所：飛騨市内（予定）
- ②開催時期：平成28年11月中旬（予定）
- ③主催者：神通川・庄川上流域
大規模土砂災害対策連絡協議会

④想定災害

- ・河道閉塞（天然ダム）・・・【国対応】
- ・地すべり　・・・【県対応】
- ・その他同時多発災害
（がけ崩れ・土石流、集落等の孤立化など）

⑤参加機関

主体は、神通川・庄川上流域大規模土砂災害対策連絡協議会のメンバー

主な参加機関

主な参加機関

市村	高山市、飛騨市、白川村
林野庁	中部森林管理局 飛騨森林管理署
岐阜県	防災課、砂防課
	飛騨県事務所、飛騨農林事務所
	高山土木事務所、古川土木事務所
国土交通省	北陸地方整備局
	高山国道事務所、神通川水系砂防事務所